

「令和4年度いわて新農業人チャレンジファーム第13回研修を開催しました！」

第13回の研修は、令和4年8月19日(金)、20日(土)に、雫石町南畑のコテージむらで行いました。

今回の講義は、「岩手の果樹栽培について」と題し、花巻市葡萄が丘農業研究所の工藤英夫所長に、講義をしていただきました。

果樹は、自分の体を作りながら、子孫を残していくため、生育ステージごとに好適樹勢(健康体である理想の姿)に近づけられるよう、「勘どころ」を会得するには、研修や経験が必要であり、生育不良を肥料不足と思い込むと失敗するというお話がありました。

また、工藤所長は果樹農家に、「農家は社長であり、100本のりんごの木があれば、100人の従業員がいるのと同じです。従業員の体調管理をしたり、病気になっていないか気を配ることが果樹農家の仕事です。」と話していることの紹介がありました。

受講生は、果樹に限らず作物の能力を最大限に引き出すには、基本を守り、栽培管理をしっかり行うことが大切だと感じたようです。

実習は、はくさいの定植とリーフレタスの定植を行いました。

はくさいの定植は、キャベツの定植と同様に、除草剤を散布し、食害性害虫にも効果がある殺虫剤を「植穴土壌混和」をしてから行い、最後に防虫ネット設置しました。

リーフレタスの定植は、久しぶりにマルチフィルム張りから始めました。受講生同士、声を掛け合い、作業手順を思い出しながら、マルチを張り、2品種を2条千鳥(条間30cm、株間30cm)の方法で定植しました。

第14回の研修は、9月3日(土)に、北上市にある岩手県農業研究センター、岩手生物工学研究センターで、「岩手の先進農業について」の視察研修を行う予定です。



講義「岩手の果樹栽培について」の様子



マルチフィルムを張る様子



はくさいを定植する様子



リーフレタスを定植する様子